

昔の地名を伝える千里山の電柱

二十回生 浅野 倉平

電柱には、それぞれ、その地に因んだ名前が付けられているという認識は持っていたが、千里山を散歩中に、千里山西五丁目六番地付近で電柱名の他に【逆潮流有】という、千里山には縁もゆかりもなさそうな標識が取り付けられている電柱を見つけた。又、千里山西五丁目四十一番地付近で、もう一本【逆潮流あり】という標識が取り付けられている電柱に出会った。そこで、又、気になると調べてみたいという悪い癖が出て、千里山の電柱名を見て廻ったが、結構興味を持って面白かった。

電柱には、電力会社が送配電に使用する電線を支持する「電力柱」と通信会社の通信用のケーブルを支持する「電信

柱」と、電力・通信会社が共用する「共用柱」の三種類の電柱があるが、電柱の所有権は施設者である電力会社・通信会社にあり、所有者はプレートなどを付けて表示している。

電柱の標識名は、同じ名前でも「漢字」で書かれているものと「カタカナ」で書かれているのがある。又、名前と共に番号がふられており、更に、番号に引き続き、関西電力の場合「N1」「北1」とか、N T Tの場合「L1」「R1」とかの記号が書かれているものがある。これは、同じ番号の電柱でも、主となる電柱のいわば子供に当たる電柱を示す記号で、「北1」「N1」は、いずれも親電柱の北側の1番目、「L1」は親電柱の左側の1番目、「R1」は右側の1番目に親電柱の子供として設置された電柱を示しているとかの事であるが、中には、かなり複雑な番号・記号がふられている電柱もあり、その決まりは良く判らない。

ネーミングに付いては、その土地の名前をズバリ付けた

ものや、古くからある電柱には町名改正前の地名が付いている電柱があり、この様な標識の電柱に出会うと、ここは、以前、こういう地名の場所だったのだと昔が偲ばれる。

しかし、中には、その名前のルーツが全く判らない電柱もあつた。

―「河田山」「カワタヤマ」・「西原」「ニシハラ」―

大阪府道二二一号線は、吹田市豊津交番前を起点として、千里山を経由し、箕面市今宮に至る道路で、通称「吹田・箕面線」と呼ばれている。この道路は府道とはいえ、大正時代に開発された千里山の道幅の狭い所を通っているので、千里山駅付近では、府道としては珍しい一方通行になっていて、豊津方向から箕面に向かうには、千里山駅前から第一噴水（下の噴水）を右折しなくてはならず、この区間は大型車の通行は禁止されている。

「河田山」の名前を冠した電柱は関西電力の電柱である。

「河田山1」は豊津交番前にあり、府道二二一号線沿いに設置されているが、千里山西二丁目二十八番地十六（阪急電車千里山陸橋）付近の「カワタヤマ40」の電柱から二手に分かれ、親電柱は、府道を左折し、千里山神社方面に向かう坂を上り、千里山西二丁目・三丁目・四丁目の境に当たる十字路を右折し、下の噴水手前の「カワタヤマ53」電柱で終わっている。一方、子電柱は府道に沿って「カワタヤマ40 N1」から始まり、阪急電車文化踏切道手前の「カワタヤマ40 N6」で終わっている。

「河田山」と云う地名であるが、現在、千里山には、この地名は見当たらない。しかし、「河田山」は、過つて旧佐井寺村と旧垂水村の境界で、吹田市の最高所（海拔八十三・〇五米）とされる三本松があつた附近（現、千里山西三丁目二十番地）一帯の地域を以前は「河田山」と呼んでおり、北大阪電気鉄道が千里山線を開通させた折には、この山一

帯の桃畑は、花見に来る人々で賑わったとかである。
従って、千里山の開発に伴い、電気を供給する電線が、この山を取り巻く形で敷設された折に、その名前が電柱に名付けられたものと推察される。

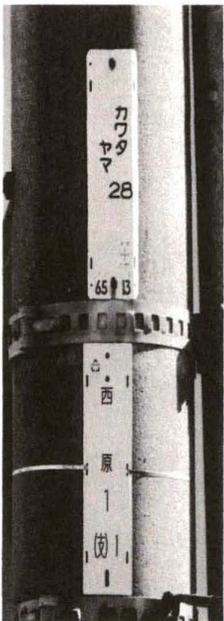
吹田一中の千里第三小学校寄りの十字路を北に少し坂を登ると、小さな丘がある。この丘は周囲を柵で囲われており中に入る事ができないが、柵の外側から、この丘の斜面が見える。そこには、主として梅の木が多く見られ、そのほかには、桃・竹藪・その他、背の余り高くない木が植えられていて、それらの樹木の中に、N.T.Tの「北丸山13北」の電柱が、ポツント一本立っている。

又、千里第三小学校正門前でも丘の様子の一部が見られ、三月初旬、梅が満開になると、まるで梅園の様な風情で、過つての「河田山」の風景は、この様なものだったのかと、思わせる。しかし、この丘には、何の表示もないので、所

墳」と名付けられたが、既に旧状は失われており、古墳の詳細は不明との事の様であるが、この場所を取り巻くように敷設された電柱に、その名が標識として付けられたものと思われる。

(注) 出土した石材は吹田市立博物館に展示されている

電柱一本とは言え、その名前に古の「河田山」・「西原」と云う名前が使われている謂れを知ると、何となくロマンと親しみを感じる。



―「楠町」・「上噴」・「カミフシ」―

千里山駅(千里山西五丁目)・千里山交番(千里山西五

有者・管理者が誰なのか判らない。

N.T.T西日本の同じ区間の電柱には、豊津方より下の噴水までの間「阪急東」・「ハンキユウヒガシ」・「西原」・「セリヤマエダ」・「千里山枝」・「南町」・「ミナミマチ」・「南町東」・「ミナミマチヒガシ」と短い間隔で標識が目まぐるしく変わっている。又、千里山陸橋より阪急電車文化踏切までの、ごく短い区間でも「セリヤマシ」・「支線柱」・「千里山枝」と標識が変わっている。

それらの電柱の内、千里山西一丁目一番地(関大前駅)付近より千里山西一丁目二十五番地(千里山陸橋)付近までの「西原」と標識を付けられている電柱に付いては、先の「河田山」の山頂より西南に下つたあたりで、昭和四十九年に古墳時代の石室に使用されたと思われる石材が出土したことから、この辺りに、前期古墳の存在が推定され、考古学上、この遺跡には、その地名に因んで「垂水西原古

丁目二)・田村書店(千里山西一丁目三八)に挟まれた三差路の道路は、全て大阪府道二二一号線である。これは、先にも記した如く、二二一号線の変則的な一方通行によるものであるが、この地域の電柱の標識も変則的に入り込んでおり、関西電力の電柱では、豊津方面から続いていた「カワヤマ40 N6 G1」の最終電柱と、この地点から新たに始まり、下の噴水からレッツチワースロードを経て【逆潮流あり】の標識が付けられている電柱に通ずる「春日町1」の電柱が田村書店の前にある。更に、千里山駅前には「春日町」名の電柱が共用電柱として五本もあり、又、N.T.Tの電柱は豊津方面から続いていた「千里山枝8 R6」は千里山駅前で終わっているが、駅前にはこの他「千里山枝」・「セリエキエダ」と名付けられた電柱が六本あり、その内四本は関西電力との共用電柱である。

「楠町」は関西電力の電柱で、「楠町」1〜3は、府道一

二二号線の下の噴水を右折する一方通行の道路沿いにあるが、「楠町4」から「楠町14西1」までは府道二二一号線に沿って第二噴水(上の噴水)の先のジャスコ(元吹田一中)への下り坂へ右折する三差路付近まで続いている。現在、「楠町」と言う名称の町名は無いが、大阪住宅経営株式會社が作成した「千里山住宅地平面圖」では、上の噴水あたりの、現千里山西五丁目三十一番地・三十五番地・三十六番地・千里山西六丁目二十五番地・二十九番地一帯の地域に「楠町」と言う名前が付けられていた。

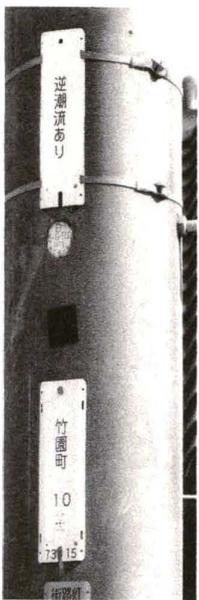
「上噴」「カミフン」はNTTの電柱に付けられている名称であり、「上噴1」の電柱は下の噴水の正面から始まり、「上噴15」まで、先の「楠町」名の電柱とほぼ同じルートに敷設されている。「上噴」とは、恐らく上の噴水の名前を略したものであろうと推察される。

そこで冒頭に記した【逆潮流有】の標識の付いていた

いる電柱がある。

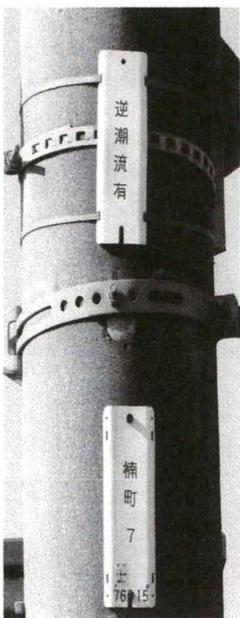
―「竹園町」・「銀行西」・「ギンコウニシ」―

レッチワースロードの終点は、千里山西五丁目と千里山竹園と接する十字路であるが、この十字路を右折して、千里山西五丁目と千里山竹園の境界線となる道路を上る噴水に向かうルートに敷設されている関西電力の電柱が「竹園町」2〜18である。その電柱の内「竹園町10」には【逆潮流あり】の表示が付いている。



「銀行西」・「ギンコウニシ」はNTTの電柱であるが、レッチワースロードには同名の電柱が合計十本もある。しか

電柱であるが「楠町7」の電柱に取り付けられている。



―「春日町」・「千里山西」・「センリヤマニシ」―

レッチワースロードは、千里山駅前から下の噴水を経て千里山竹園に至る、千里山西五丁目と西四丁目の境界線となる道路である。

「春日町」1〜17は、このレッチワースロードに沿って敷設されている関西電力の電柱であり、「千里山西」2〜11はNTT西日本の電柱である。しかし、NTTの電柱には、この他に「ニシマチ」・「西町」・「銀行西」と名付けられて

し、その番号は全て「1」であり、その下に「R1」「R2」など、その他の記号が入っている。しかし、この近くには銀行は見当たらないが、この近くにあった銀行と云えば、以前、下の噴水脇に銀行があった様な気がするが……？尚、NTTの電柱には「中央」・「チュウオウ」・「南千里」などの標識が付けられた電柱もある。

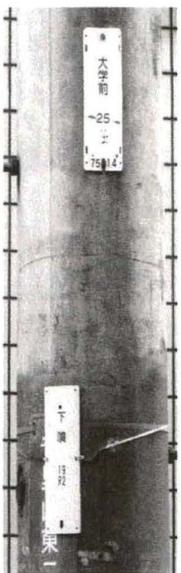
―「大学前」・「関大前」・「下噴」・「シモフン」―

「大学前」は関西電力の電柱で「下噴」はNTT西日本の電柱である。

「大学前1東」は阪急電車花壇踏切道のある関大1高・一中の正門脇(元千里山遊園地入口)から始まり、関大前駅の住宅地踏切道脇を経て上の川沿いに設置されており、千里山駅の文化踏切道の手前「大学前25」で終わっている。

一方、「下噴1A」は関大前の住宅地踏切道脇から始まっていて、ルートは「大学前」名電柱と同じで、文化踏切

手前の「下墳 19 R2」で終わっているが、この電柱は関西電力の「大学前 25」との共用柱である。



尚、花壇踏切道から関西大学付属幼稚園前を経て住宅地踏切道との NTT 西日本の電柱には「エキマエ」・「駅前」・「関大前」など多様な名称が付けられている。

花壇踏切道から文化踏切道に通ずるこの道路は、花壇踏切道↓関西大学付属幼稚園前↓関大駅前の少し先のフタバポール手前まで一方通行で、フタバポール前からコニシ電化までの間は双方通行となっている。しかし、コニシ電化

から上の川沿いに文化踏切道までの間は、再び一方通行になると云う、少し変則的な道路である。その為に、地元の車両はともかくとして、他所から来た車両は、よく逆走しているのを見かける。

電柱は豊津方から千里山方へと敷設された様で、電柱の番号がその事を示しており、「下墳」などは、住宅地踏切道から下の噴水へ向けて敷設された折に名付けられたものと推察される様な名称である。

それにしても「下墳」とか「上墳」とか云う名称は、如何にも千里山にふさわしい電柱名で、施設者のユーモアが感じられる。

―「永楽」「尾谷」・「霧が丘」「星ヶ丘」「団地」―

千里山駅の文化踏切道から千里山佐井寺図書館と千里第二小学校に向かう道に設置されている関西電力の電柱には

か、事ついでに、見守ってみたい。

尚、千里山佐井寺図書館から佐井寺観音(山田寺)までの関西電力の電柱は「尾谷」に続き「南佐井寺」・「佐井寺」などの名前の電柱が続いている。一方、NTT 西日本の電柱には「星ヶ丘」・「ホシガオカ」「佐井寺西」に続き「佐井原」となっている。

以上、千里山の、ごく僅かな通りの電柱名を紹介したが、千里山は「存じ」の如く、下の噴水を中心として、通りが放射状に伸びており、更に、その通りを横切る道があり、いわばクモの巣状の街になっているので、それらの通りの電柱名を調べてみると、もっと多くの古い町の名前の標識が付いた電柱が見つかるのではないかと思う。

実際のところ、元大学駅前近くにあった千里山ポンプ場(現在は駐車場となっている)の先を少し横に入った千里山西一丁目二十八番地付近には「千里山 I」と云う NTT

「永楽」「尾谷」と名付けられた電柱が並んでいる。「永楽」は、少し離れているが、現在の千里山西六丁目あたりの旧町名の永楽園から取ったものであると思われる。「尾谷」は、昔の佐井寺の地域名の一つで、現在の月ヶ丘あたりである。

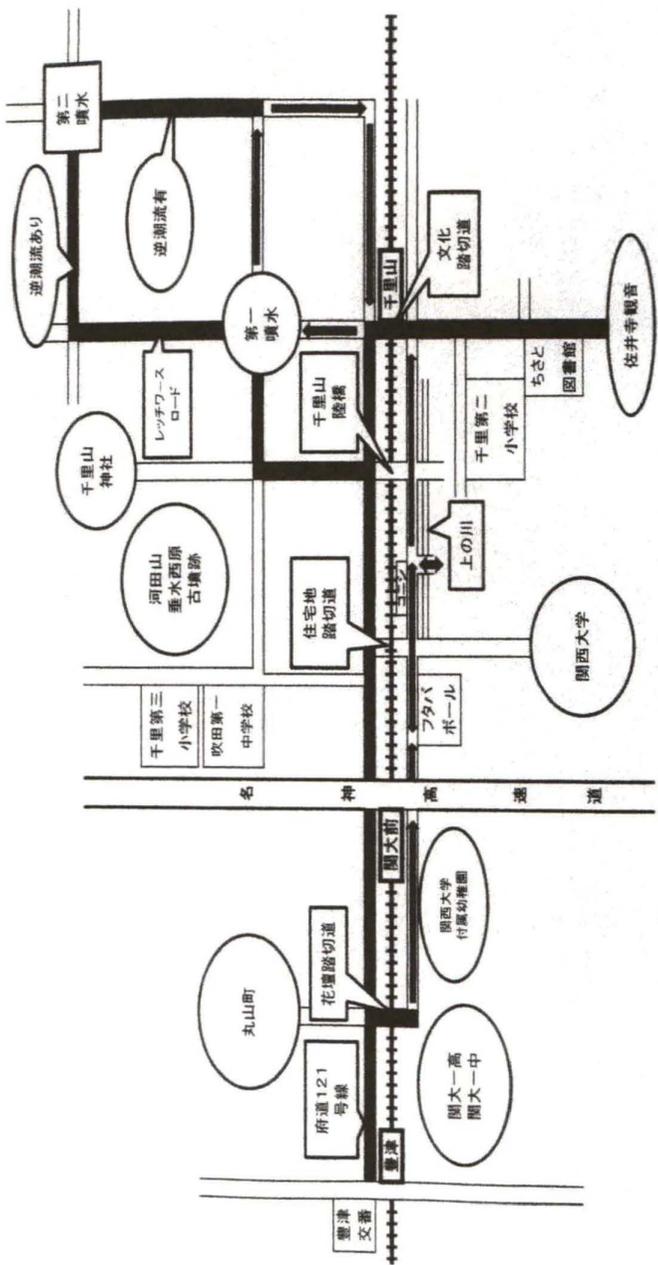
「霧が丘」「星ヶ丘」「団地」は NTT 西日本の電柱で、現存の町名その物である。

平成二十二年より、千里山駅周辺整備事業が、老朽化した UR の千里山団地の建て替えと一体となり始まり、既に新しい集合住宅の建設・千里山駅を跨ぐ陸橋工事・文化踏切道から千里山佐井寺図書館の間の道路幅拡張工事が現在進行している。これらの工事は、当然、この地域に施設されている電柱にも及び、電柱の移設・新設・廃止などの処置が講ぜられる事であろうが、どの名前の電柱が残り、又、廃止され、新設電柱には、どのような名前が付けられるの

西日本の電柱があり、更に、その先の千里山西四丁目二番地附近には、同じくN.T.Tの「スイソウ」(水槽)名の電柱がある。

又、私がよく歩く道筋の電柱には、新しい町の名前に混じって「西見」「セイジ」「岡辻」「アブラタニ」「山の谷」「水無」「五里山」などの名前を冠した電柱が何本かある。中にはあるマンションの敷地内には「橋本私設柱」というのもあり、又、「吹田市菅柱」と云う電柱もあった。

行政地域の合理化を計るために、町名の見直しが進み、現在の地名は、千里山東・南千里・千里山西・北千里と云うように「麻雀型」の地名の付け方になってきているが、皆様方も、散歩・買い物・通勤などの折に、一度、お住まいの街の電柱名を、少し意識をしてみても戴くと、何か、新しい発見がある事と思います。



所で、冒頭の【逆潮流有】・【逆潮流あり】の標識が付いた電柱であるが、これを簡単に説明すると、通常、電力は電力会社から需要家である企業・家庭等に送られているが、需要家が太陽光・風力等で発電をして、余った電力を電力会社に売れる場合、電力が通常の流れと逆になる。この現象を「逆潮流」と云う事の様である。標識の意味が判つてみれば、「何だ」と云う事になるが、この標識を見付けたお陰で、千里山の古い地名を思いもかけず、再認識する事が出来る結果となった。しかし、それにしても人騒がせな標識である。原子力発電が問題視されている昨今、今後、この標識が付けられた電柱が増えるのではないかと思われる。

以上

参考文献

電柱に関する文献を千里山佐井寺図書館と関西大学図書館で探してみたが、意外な事に何も見つからなかったので、インターネットで検索したものを参考資料として使わせて戴いた。